

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：32658

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K22151

研究課題名（和文）アフリカにおける社会的保護政策と貧困削減への効果：受益者視点から政策を評価する

研究課題名（英文）Social protection programme and poverty reduction in Africa: Insight from beneficiary household

研究代表者

五野 日路子（Gono, Hiroko）

東京農業大学・国際食料情報学部・助教

研究者番号：80774348

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、社会的保護政策のより良い施行方法、また政策と合わせてどのような支援が必要であるのかを受益者となる農村世帯レベルから詳細に示すことであった。本研究では、COVID-19の影響により計画通りには進まなかった点もある中で、マラウイ農村世帯が主食であるトウモロコシを十分に確保するには、生産または購入どちらからの支援が必要であるのか、マラウイ農村世帯が現金や食料の不足時に採用する賃金労働(ganyu)について、を明らかにした。これら研究成果は、貧困やフードセキュリティ達成を目的とする政策立案や実施において役立つものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で得られた成果は、これまでの政策評価研究において捉えることが難しかった個々に異なる世帯の特徴や変化までを明らかにできた点に意義がある。大規模調査による評価分析では明らかにできない点を、本研究では詳細に調査・分析を行っている。そのため、本研究で明らかになった「1年間の食料を確保するために有用な支援」や「現金や食料不足時に採用する農民の生計戦略の詳細」に関しては、今後のフードセキュリティおよび農村生計研究にも有用なデータとして貢献するものであろう。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this study was to show how social protection programmes aimed to reduce poverty and achieve food security are better implemented. It was also to show in detail from the level of rural households what kind of assistance or support is required to accompany the programme.

This study clarified two important questions: 1. Which support, production or purchase, is important to secure sufficient maize, and 2. What is the "ganyu" rural livelihood strategy that farmers adopt when food and cash are lacking?

These research findings will contribute to the design and implementation of programmes that aim to achieve poverty and food security.

研究分野：社会科学

キーワード：社会的保護政策 フードセキュリティ 貧困削減 農村生計 アフリカ トウモロコシ マラウイ

1. 研究開始当初の背景

近年、貧困層の脆弱性の克服を目的とした社会的保護政策がアフリカ各国でおこなわれている(Ellis et al., 2009)。社会的保護政策では、貧困世帯の所得や食料消費の不足を支援するのみではなく、生産や人的資本への投資を促すことで、貧困世帯のリスク削減やショックからの回復能力強化を実現し、貧困へ陥る連鎖を食い止めることを目的としている。

本研究の対象とするマラウイでは、主食であるトウモロコシ生産に必要な農業投入財を安価に購入できるようにする「農業投入財補助金政策」と、現金を一定期間無条件に給付する「社会的現金給付政策」の2つの社会的保護政策を実施している。中でも、農業投入財補助金政策は、15年の長期に渡り継続して実施されている。しかし、マラウイにおける貧困率はいまだ高く、政策実施以降も緊急援助を伴う食料不足を幾度となく経験している。

マラウイにおける農業投入財補助金政策については、政策効果を国レベルで捉えるのか、農村レベルで捉えるのかの違いによって様々な評価がなされており、社会的保護政策が貧困や食料不足問題の解決に有効的であるかはいまだ不明瞭な点がある(Lunduka et al., 2013)。これまでの政策評価や効果に関する先行研究の多くは大規模調査に基づく計量分析からの報告が多い。大規模調査に基づく計量分析では、国内全体や地域ごとの傾向を把握することには長けているものの、個々に異なる農村世帯の特徴や事情・背景までを捉えることが困難であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、政策の効果を農村世帯レベルから検討することで貧困世帯の実態を示し、これまでの計量分析を中心とした先行研究では明らかにできなかった点を補完することにある。また、研究で得られた成果を貧困世帯の脆弱性の削減を通じた、貧困・食料不足問題の解決に役立てることを目指すものである。

3. 研究の方法

本研究では、質問票を用いた各世帯への詳細な聞き取り調査をおこなった。調査対象村はマラウイ北部地域および南部地域からそれぞれ選定した。対象村の選定にあたっては、農業省の職員を交えて、貧困状況、経済活動や情報へのアクセスなどの条件を考慮しながら協議した。調査対象世帯の選定にあたっては、ランダムサンプリングをおこない選出した。

4. 研究成果

(1) 生産による支援が必要か？それとも購入による支援が必要なのか？

本研究では、マラウイで実施されている農業投入財補助金政策と社会的現金給付政策に注目し、農村世帯が十分な量のトウモロコシを消費するには、トウモロコシ生産量または購入量のどちらを優先して増やすべきかについて検討した。多くの農村世帯がトウモロコシの自家生産による不足を購入によって賄っているが、購入によっても不足するトウモロコシ消費量を賄うことができない状況にある。このような状況下で、多くの農民はトウモロコシ購入を容易にする現金給付政策ではなく、トウモロコシ生産増につながる投入財補助金政策を望んでいた。しかし調査世帯のトウモロコシ生産・消費と所得の特徴を詳細に検討した結果からは、トウモロコシ生産量を増やすだけではなく、個々の世帯の特徴に応じて購入量を増やすための支援も、12ヶ月分のトウモロコシを十分に確保するには必要であることが示された。合わせて農民が現金を確実に蓄え、現金を必要とするときに使用できるよう、社会的現金給付政策の施行方法の工夫も必要である。本研究を通して、マラウイ農村における貧困と食料不足の問題を考える上では、生産面または購入面どちらか一方のみを捉えて考えるのではなく、両側面を考慮した農業・農村開発協力を模索することが大切であることが示された。

(2) マラウイ農村世帯が現金や食料の不足時に採用する賃金労働(*ganyu*)について

ガニユ(*ganyu*)は、農村世帯の収入不足と食料生産不足に対処するためにマラウイ農村にて広く採用されている生計戦略である。これまでの研究では、ガニユが農村の生計に与える影響の大きさについては議論されてきたが、個々の農村世帯の実態については詳しく調査されてこなかった。本研究では、マラウイにおけるガニユと農村生計の関係を分析するために、ケーススタディも含めた村レベルからの詳細な検討をおこなった。ガニユに従事する世帯、ガニユを雇用する世帯、ガニユに従事しガニユを雇用する世帯の3つのカテゴリーについて、その特徴を検討した。調査の結果、以下のことが判明した： ガニユからの収入とフードセキュリティへの貢献は、年齢、性別、生計状況、地域の状況によって大きく異なる、ガニユを使用する世帯は必ずしも裕福ではなく、トウモロコシ生産で自給自足を達成していない、農村世帯におけるガニユへの従事と使用の矛盾した行動は、その世帯の状況に応じたニーズに起因している。ガニユを単純に低賃金の農業賃金労働とみなすのではなく、各世帯がガニユに従事したり雇用したりする

のには、世帯ごとの合理的な選択や判断があると捉えることがガニユを理解するには必要である。このような農村世帯が捉えるガニユを詳細に理解することは、貧困削減やフードセキュリティ達成を目指す政策により良い影響を与えるだろう。

<参考文献>

Ellis F, D. Stephan and W. Philip (2009) Social Protection in Africa, Edward Elger Publishing Limited (UK).

Lunduka R., J. Ricker-Gilbert and M. Fisher (2013) What are the Farm Level Impacts of Malawi's Farm Input Subsidy program? A Critical Review, *Agricultural Economics* 44, pp.563-579.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Gono Hiroko, Takane Tsutomu, Mazibuko Dickson	4. 巻 15
2. 論文標題 Casual Wage Labour, Food Security, and Sustainable Rural Livelihoods in Malawi	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 5633 ~ 5633
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su15075633	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 五野 日路子	4. 巻 101
2. 論文標題 生産か?それとも購入か?: マラウイ農村における社会的保護政策とトウモロコシ消費	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 67-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 五野 日路子
2. 発表標題 マラウイにおけるガニユ (ganyu) : 農村世帯とトウモロコシ消費
3. 学会等名 日本国際地域開発学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------